

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 伊東市立北中学校

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	1年 伊東市立北中学校1年生 伊東市立西小学校6年生 県立東部特別支援学校伊東分校中等部 2年 伊東市立北中学校2年生 県立伊東高等学校生徒 3年 伊東市立北中学校3年生
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（3年美術科、1, 2年生総合的な学習、1年英語科） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	1年：1年生は総合的な学習で「福祉」をテーマにしている。パラリンピックのメダリストの講演や特別支援学校の生徒とのスポーツ交流を通じて、共生社会について肌で感じる機会にする。 2年：2年生は総合的な学習で「職業」をテーマにしている。パラリンピックの競技の支えになっている義足エンジニアの方の講演を聞くことを通じて、職業観や生き方について学ぶ。 3年：ピクトグラム制作は、年齢や性別、国籍、障がいの有無に関わらず、形や色彩などを用いて、すべての人が困らないように、デザインすることがその本質となる。オリンピック・パラリンピックを通じて、UD(ユニバーサルデザイン)の教育を推進し、共生社会について考える。
5 取組内容	1年生 パラリンピック・ボッチャのメダリスト杉村英孝氏を招き、伊東市立北中学校、伊東市立西小学校、県立東部支援学校伊東分校中等部の生徒と交流を深めながら競技を行った。事前に杉村氏からボッチャのルールや審判について教えていただく機会を設定していただき、運営した生徒たちも楽しそうに学んだ。  

▲ ボッチャを通じて交流 (西小学校体育館)

## 2年生

12月10日、県立伊東高等学校において義足エンジニアの遠藤 謙氏を招いて、最先端の技術を盛り込んだ競技用義足を開発などの講演を聞くことができた。



▲ 遠藤 謙氏の講演（伊東高校体育館）

## 3年生

静岡県くらし・環境部のユニバーサルデザイン出前講座（以下、UD 講座）に申し込みをして、7月18日にユニバーサルデザインについて学ぶ機会をつくった。



▲ 3年生 UD 出前講座の様子

UD 出前講座を生かして、その後東京オリンピック・パラリンピックの種目のピクトグラムを美術科で制作して学習発表会で展示した。



▲ 3年生 ピクトグラム作品

その他の取り組み

(1) 1年生英語の授業「How do you say ～」

オリンピック、パラリンピックのピクトグラムを使って、オリンピックの種目を英語で答える。



生徒たちからは、オリンピックの種目を「陸上競技じゃない？」など想起する姿が見られた。

(2) 図書室にオリンピック・パラリンピックのコーナーを設置する。



1年生

新聞などでボッチャの杉村氏の活躍を見るたびに、生徒が興味をもってその結果を見るようになっている。また、ボッチャで交流したことによって、その競技の良さを感じている。そして、ボッチャについての興味・関心の向上がうかがえる。事業実施後の生徒の感想には、「小学生だけでなく、分校（特別支援学校）の生徒とも交流ができて良かった。誰でもできるボッチャの良さを感じることができた」「ボッチャを通しての西小の児童、伊東分校の生徒、杉村選手と楽しそうに交流ができてよかったです」「日本では身体の不自由な人を『障がい者』として見るが、外国ではそうでないことがわかった」「杉村さんのすごいプレーを見て、障がい者という捉え方は変えた方がいいと思った」「障がいのある人と、一緒に活動することが大切だと思った」などの感想があった。

2年生

12月10日、県立伊東高等学校において義足エンジニアの遠藤 謙氏を招いて講演を聞いた。

## 6 主な成果

生徒からは、「義足にロボットなどに使われる最先端の技術が使われていることに驚いた」、「情熱をもって障がい者のために働く姿が素晴らしいと思った」「競技をする人が注目されるが、支えになっている人の努力もすごいと思った」などの感想があった。

総合的な学習の「職業」のテーマについて、競技の支えになっている義足エンジニアの方の講演を聞くことを通じて、職業観や生き方について学ぶことができた。

3年生

静岡県くらし・環境部のユニバーサルデザイン出前講座（以下、UD 講座）で、7月18日にユニバーサルデザインについて学び、その後、実際にピクトグラム制作を行った。生徒の感想には「ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いがわかった」、「普通の生活の中にも多くのユニバーサルデザインがあることを改めて知った」などがあった。その後のピクトグラム制作においての生徒の発言には「このマークでは、外国人にはわからない」、「障がいのある人にもわかるといい」、「誰でもわかりやすいように、色を変えた方がいい」など、オリンピック・パラリンピックのピクトグラムの制作を通じて、共生社会について考える場面が見られた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在行っている通常の学校の教科、総合的な学習時間などに関連させて本事業の取り組みを行ったこと。</li> <li>• 総合的な学習の授業のテーマに関連させたため、その場だけの活動だけでなく、事前準備(学習)を大切にしたこと。特に1年生のボッチャでは、ルールや事前に審判の方法まで、アスリートから指導を受けることができた。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前年度の作成した教育課程に関連させて、本事業の取り組みを計画しているため、事業実施時期に課題が残った。例えば講演会を聞くのに、12月に体育館で聞くのには寒いことなどがあげられる。</li> <li>• 各学年で取り組むテーマが違うために、連絡調整に時間を要した。</li> </ul>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>平成29, 30年度と2年間本事業に取り組んできた。オリンピック、パラリンピックの選手や関係者と接したり、講演会を聞くことができ、よい機会であったと考える。</p> <p>新学習指導要領の本格実施や、教職員の働き方改革を踏まえ、教育課程の見直しを行っている。その中で、総合的な学習のテーマの見直しも行われ、本事業については今年度で終了する予定である。</p>